

# ご挨拶

副会長 中村 秀明（知能情報工学科教授・土木59年卒）



会員の皆様方には、平素より常盤工業会の事業に対しご理解と多大なご支援をいただき厚く御礼申し上げます。早いもので、令和元年も終わりを迎えつつあります。ふり返れば今年台風などの自然災害が多くあった年でした。被災された皆様には心よりお見舞い申し上げます。

さて、本年5月の定時総会で副会長を拝命いたしました。が、「常盤」での初めての「ご挨拶」に際しまして、少し自己紹介をさせていただきます。

私は、1984年(S59)に土木工学科を卒業後、1986年(S61)に修士課程を修了し、私の地元にある自動車を製造するマツダ(株)に就職しました。その後、1988年山口大学工学部土木工学科の助手となり、現在は、知能情報工学科の教授をしております。主な研究内容は、情報技術の建設分野への活用ということで、主にコンクリート構造物を対象としたひび割れのシミュレーションや維持管理を支援するための各種情報システムの研究開発を行っております。

さて今年、山口大学工学部は創立80周年を迎えました。工学部の前身である宇部高等工業学校が1939年に創立されてから今年で80年になります。この間、約2万人の卒業生を輩出し、卒業生は、国内外の企業、公的機関などで幅広く活躍しています。

現在の工学部は、機械工学、社会建設工学、応用化学、電気電子工学、知能情報工学、感性デザイン工学、循環環境工学の7学科と各

学科に共通する部分の教育を担当する工学基礎講座があり、1学年約550名の学生に対して教育を行っております。

今年は、元号が「平成」から「令和」に変わりました。我が国の社会に目を向ければ、少子化による生産年齢人口の減少や高齢化、過度な一極集中などの課題に直面しています。特に地方における急速な人口減少は、労働人口の減少や市場の縮小を引き起こし、地方の経済規模を縮小させ、サービスの低下を引き起こすなど、地方を疲弊させています。一方で、デジタル革命やグローバル化がかつてないスピードで進んでおり、Society 5.0の実現に向けた取組が加速しています。それと同時に、モノではなく、知識を集約し、共有することで、様々な課題を解決し、新たな価値が生み出される知識集約型社会への急速なパラダイムシフトが起こっています。工学部においてもこれまでの蓄積を基礎として活かすとともに、社会の変化に柔軟に対応できる次の時代、あるいはその次の時代を担う人材の育成を目指し、日々進化を続けております。中国の古典に、「一年を思う者は花を植える、十年を思う者は樹を植える、百年を思う者は人を育てる」という言葉があります。変化の激しい時代ではありますが、こらからの100年を考えるとやはり人材育成が重要となります。人材育成では、同窓会の役割が非常に重要であり、同窓会と大学とがより密接に連携、協力することが必要となります。大学対応担当の副会長として、微力ではありますが、少しでもお役に立てればと思っております。

最後に、常盤工業会の会員の皆様のご多幸とご健勝を祈念し、ご挨拶といたします。